富士山登山鉄道構想検討会 第５回理事会　議事概要

【開催概要】

１．日時　　令和２年12月２日（水）14:30～15:50

２．場所　　参議院議員会館 「B107会議室」

３．出席者（敬称略）

山東　昭子	参議院議長
デービッド・アトキンソン	株式会社小西美術工藝社 代表取締役社長
岩村　　敬	一般財団法人環境優良車普及機構　会長
太田　孝昭	認定ＮＰＯ法人富士山世界遺産国民会議　監事
小田　全宏	認定ＮＰＯ法人富士山世界遺産国民会議　運営委員長
坂井　　究	東日本旅客鉄道株式会社　常務取締役
島田　晴雄	東京都立大学　理事長
清水　喜彦	ＳＭＢＣ日興証券株式会社 取締役会長
高橋　誠一	全国賃貸管理ビジネス協会　会長
平林　良仁	認定ＮＰＯ法人富士山世界遺産国民会議　評議員
藤井　敏嗣	山梨県富士山科学研究所　所長
松浦　晃一郎	第８代ユネスコ事務局長、元駐仏大使
宮田　年耕	首都高速道路株式会社 代表取締役社長
山﨑　養世	EHL（エコール・オテリエール・ド・ローザンヌ）ナレッジパートナー 日本代表

【次　第】

１．開　会

２．挨　拶　　山東　昭子　参議院議長
　　長崎幸太郎　山梨県知事

３．議　事

（１）富士山登山鉄道構想（素案）について

（２）その他

４．閉　会

【主な発言】

全体構成について

・短時間にしっかりした形で構想ができたと評価。
・一歩一歩、話が進み始めたことを実感。
・鉄道駅に至るまでの道路渋滞や、五合目より先の課題も視野に入れることが必要。

事業主体について

・上下一体か上下分離かの結論を出すにはまだまだ早い。もっと詰める必要あり。
・ガバナンスがどこにあるのかが重要。民間企業なのか、県なのか、共同体なのか。どこからどこまで協力してもらうのか、枠組みをきちんと整理することが必要。
（⇒　原則として県は経営に関与しない形が望ましいという基本的な考え方は変わっていない。最初の段階は別にしても、ぜひ民間事業体で回していけるように、速やかにそこに移行する形としたい。）

事業費、事業スキーム等について

・利益を生み出すまでに何年もかかる。それまでの財源をどうするか、特に五合目の景観対策などは今から対応が必要だが、県の一般財源なのか、現在の利用者から税として徴収するのか、財源の整理が必要。
（⇒　財源論は重要。利用者にどう負担していただくか、県の一般財源でどこまで負担できるか、将来鉄道をにらんだ何らかの工夫ができるか、様々な案を練って相談したい。）
・収支予測が荒い。維持管理費が相当かかるはず。それを入れずにこの事業スキームはＯＫとの判断は短絡的すぎる。雪崩をはじめいろいろな支障が生じる。どのくらい維持管理費がかかるか十分に検討すべき。
・LRT に対する国の支援スキームがあるにも関わらず、支援を全く受けずに成立できるという結論は極めておかしい。再検討を。
・事業採算性は、まだまだ不確定な要素が多い印象。普通の鉄道より輸送力が限定される LRT で、300 万人の需要をどうコントロールするのか、また、鉄道はイニシャルだけではなくてランニングコストも非常にかかるため、冬の対策などメンテナンスコストをどのように算定していくかなど、留意が必要。

（⇒　今回はあくまで試算であり、今後の精査の過程で必要な要素を盛り込んでいくことが必要。まずは支援がない条件で採算性を検討してみたが、今後、国土交通省等と協議し、支援制度等について指導を得たい。）

・今ある富士山に、いかに付加価値をつけてお金を払ってもらえるかも考えて予算を組まないと、金融機関では融資できる状態にならない。どのように付加価値を付けるか、追々しっかりと計画の中に入れて欲しい。

技術的課題の深掘りについて

・山岳部における架線レスでのＬＲＴは、国内では事例のないもの。技術面での課題、特に安全は譲れない条件であり、雪崩調査同様、さらに具体的な掘り下げが必要。

（⇒　架線レスの LRT が実際に富士山で運行できるのかなど、技術的な検討や実証は必要。）

・今後、仮に事業者が選定されても、事業者だけでさまざまな検討を行うことは困難。引き続き学識経験者やコンサルタントなどと力を合わせて詳細な検討を行うことが大事。

地元とのコミュニケーションについて

・地元の反応は。

（⇒　地元からは納得していただけそうだという手ごたえはあるが、本格的な説明はこれから。総会を経て方向性が定まった段階で、再度この事業の持つ意味などについて、しっかりとコミュニケーションを取りながら、最終的に了解を得たい。）

五合目等のあり方について

・鉄道構想は五合目再開発のきっかけになる。それができて初めて知事の言う上質な観光地が実現できるし、それを行うことを説明しないと学術委員会や世界遺産委員会は納得しない。

・今回の議論を契機に、五合目の売店や山小屋も含め、富士山をどのように世界に誇れるものにしていくのか議論すべき。

（⇒　五合目の最大の問題は電気が通っていないこと。単体で進めることは困難なので、鉄道を契機に電気を通すことで、トイレや自家発電などの問題の解消や観測機器への電源供給など、様々な点で五合目の環境の改善の基礎を提供できる。

⇒　鉄道の有無に関わらず、今後は薄利多売方式が成り立たない。少ない人数で高付加価値化しないと駄目だというコンセンサスが得られれば、関係者の理解も進むのではないか。）

ユネスコ対応について

・ユネスコ世界遺産センターの幹部に対して説明が必要。今年延期された世界遺産委員会が来年６月に中国・福州市で開かれるので、直接説明しては。
（⇒　準備が整い、機会があればユネスコに説明したい。）

富士スバルラインにおける雪崩に関する調査について

・雪崩の調査は非常によくやっていただいたが、落石の可能性も考慮を。
・雪崩対策として、洞門を造る経費に比べ、植生の方が安く上がりそうな気がするが、それだけでは無理か。
（⇒　富士山で雪崩が発生すると、植生ごとなくなってしまうため、植生だけで雪崩を止めるのは困難。導流堤と洞門の組み合わせが基本。洞門には、万一の際の退避場所の機能もある。）
・国土強靭化予算が拡大されるので、上手く活用を。
（⇒　前倒しで活用させていただけるよう相談したい。）

理事長総括

・さまざまな角度から、錚々たるメンバーの方に素晴らしいご指摘をいただいた。
・まだまだいろいろ課題もあるが、できる限りスピーディに、目的に向かって克服していただければと思う。今後ともよろしくお願いする。

＊上記意見を踏まえ、必要な修正を行った上で、理事への書面協議を経て２月上旬に総会を開催し、最終的な構想のとりまとめを協議。

以上